

円急落！ 時139円台

24年ぶり水準 米利上げ加速観測

十四日の外国為替市場の円相場はドルに対して売られ、一時一ドル=二三五円台前半まで急落した。一九九八年九月以来、約二十四年ぶりの円安ドル高水準を更新した。歴史的なインフレに対処するため米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを加速し、日米金利差が拡大するとの観測から円売りドル買いが優勢となり、前日から一円以上、円安が進む場面もあった。

関連①面

東京外匯為替市場では一時一ドル=一三九円一八銭まで円が下落。午後五時現在は前日比一円〇五銭円安ド

ル高の一ドル=一三九円〇九一錢。コートロは一円一錢円安ユーロ高の一欧元=三九円五九一六三錢。前日のニヨーヨーク市場では、六月の消費者物価指数が前年同月比9・1%上昇と市場予想を上回り、上昇率が約四十年ぶりの大きさとなつたことを受け、日本市場でもこの流れを引き継いで円売りドル買いが進んだ。

円安は輸出企業にとっては追い風となる一方、輸入

上田東短フォレックスの阪井勇藏営業企画室室長は「松野博一官房長官の『憂慮している』との口先介入で円が買われる場面もあつたが、効果は限定的だつた。今後、一ドル=一四〇円を超えてさらに円安が進む」ともあり得る」と分析した。

米の金利差拡大を意識した円売り注文が膨らんだ。FRBが、今月下旬の連邦公開市場委員会(FOMC)で通常の四倍に当たる1%の大利上げに踏み切るとの見方も浮上。カナダ銀行(中央銀行)が1%の利上げを決めたこともあ

品の価格を押し上げ家計の負担や中小企業の調達コストを増やす面もある。金融市場では日銀が円安是正のために政策を修正するとの観測もくすぐる。